加倉井砂山
日新塾跡

JAPAN HERITAGE
日本遺産

日新塾跡は弘道館を中心とした、
水戸市に於ける近世日本の教育遺産の構成文化財として
平成27年日本遺産に認定されています

加倉井砂山の肖像画（妙徳寺所蔵）

砂山は晩年、独力でオランダ語を学び始めました。
人間は「日々新しくならなければならない」
――「日新」精神を率先実践しました。

日新塾跡（水戸市成沢町364番地）とその周辺案内図

《日新塾跡》交通のご案内

◎お車ご利用の場合：国道 123 号線より成沢十文字へ至り、日新塾跡まで約2分。
成沢十文字およびその先の入口に案内看板（道標）があります。
常磐自動車道・水戸 IC から国道 50 号線を右折して約 20 分。東京方面からは常磐自動車道・水戸北スマート IC から県道 51 号線（水戸―茂木線）で約 6 分のルートもあります。

《加倉井砂山の墓》

◎鹿島神社入口の道路を入って鹿島神社の南側、ヒノキとスギの林の中の墓地内にあります。

《お問い合わせ・連絡先》
財団法人 日新塾精神顕揚会
〒103-0028　東京都中央区八重洲１丁目７番 20 号
八重洲口会館３階　川崎定徳株式会社内
☎03-3271-1633　FAX 03-3271-5060

(2023.7)

（水戸市指定史跡）

砂山夫妻の墓（水戸市指定文化財）

藩主斉昭の信頼もえて広い交友

徳川斉昭
（幕末と明治の博物館所蔵）

会沢正志斎
（弘道館所蔵）

藤田東湖
（茨城県立歴史館所蔵）

多彩な門人たち

鯉渕 要人
興野 道甫
斎藤 監物
鈴木 暘庵
光岡多治見
川崎八右衛門
飯田 軍蔵
香川 敬三
藤田小四郎

加倉井砂山（かくらい さざん）と日新塾

日新塾は、江戸時代後期、水戸城下近郊の成沢村（現水戸市成沢町）に開かれた私塾で、主宰したのは成沢村の庄屋、水戸藩郷士の加倉井砂山（一八〇五年～一八五五年）です。父の久泰（一七六一年～一八三九年）が自宅に開いた私塾を引き継ぎ、これを発展させました。老若男女、身分を問わず、個性尊重、自主性重視の教育方針は、近世私塾の代表的存在の一つとして位置づけられています。そして、砂山の教育者としての名声が高まるにつれ門人が増加し、屋敷内には山楽楼・行伍塾・万甫楼・日新舎などの名称をもつ屋舎が立ち並ぶ盛況を呈しました。

通学できない距離の者は寄宿しましたが、その数は通常三、四十名と推定されます。中には遠く会津、越後からの入門者もありました。三十年余りに及ぶ教育活動で育てた門人は千人をはるかに超えたと言われています。

学芸、武芸、医学…多彩な教育科目

教育科目の多彩な点でも他塾の追随を許しませんでした。学芸では読書・習字・作詩作文・地理・歴史・数学・兵学のほか、日常生活や時事問題を話題としての講義、塾生同士の論講・論読・討論会などがあり、武芸では剣術・砲術・馬術・教練の各科がありました。

砂山は医学にも深い関心を示し、書庫には多数の医学書を蔵し、医者の研修にも多大の便宜を与えていました。

幕末・維新の激動期に生きた門人の中には、現状打開を叫んで政治運動に挺身した者もいましたが、その多くは農村社会に着実に根を下ろして家業に励み、教育に出精し、砂山から受けた学問と精神を各地に伝えていきました。

発掘された日新塾

平成16年から平成20年まで、水戸市教育委員会による発掘調査が5回にわたって行われました。その結果、明治10年以降に再建された近代母屋の礎石が、当時のままの姿で残っていることが確認されました。また、その下層からは江戸時代の礎石も発見されており、これが日新塾の母屋の跡と推測され、日新塾の遺構は、今も地下に眠っていることが確認されたのです。

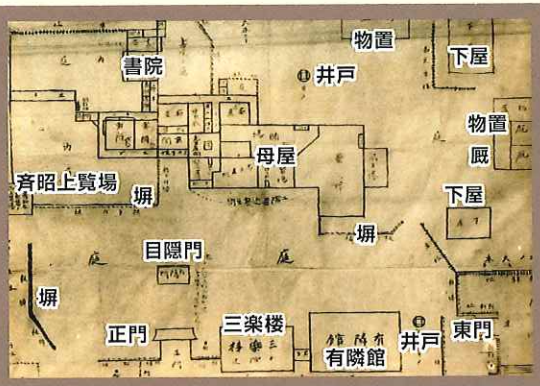
近代母屋の礎石の下層からは、明治10年の火災の後片付けの跡があり、その中から日新塾で使っていた食器などが出土しました。これは砂山一家や塾生たちの生活の実態を伺うことのできる貴重な資料となるもので、特に第4次調査では、県内初となるオランダ陶器が出土しています。

砂山は晩年、蘭学に関心を示していたので、それとの関係が注目されます。

発掘調査で出土したオランダ陶器（茶碗）
水戸市教育委員会提供

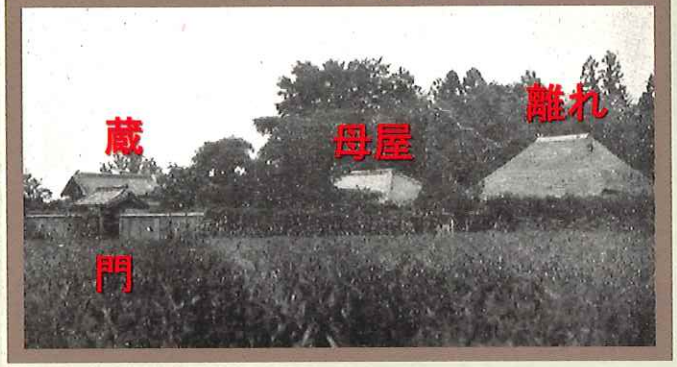
（水戸市立博物館に寄託、水戸市指定文化財）

文化5年（一八〇八年）の年号のある棟札。この棟札は、かつて正門左側にあった屋舎から発見されたもので、父久泰の時代からの屋舎が近年まで残っていたことを示す貴重な資料です。



日新塾の図面（弓野國之介著『贈正五位加倉井砂山先生略傳』より転載）

全景（近代）



日新塾で使用された教科書の一部（明治10年の火災で焼失を免れた蔵書1,824冊があり、茨城県立歴史館に寄贈、保管されています）

母屋（近代）

日新塾跡の歴史

日新塾（にっしんじゅく）跡（あと）は、水戸市成沢町364番地に所在する江戸時代の私塾（しじゅく）です。母屋（おもや）のほかに三楽楼（さんらくろう）・有隣館（ゆうりんかん）等の建物がありましたが、現在は遺跡（いせき）となっています。その重要性から平成22年には、市の史跡（しせき）に指定され、平成27年には弘道館（こうどうかん）や偕楽園（かいらくえん）とともに、文化庁の日本遺産（にほんいさん）に認定されました。

年	できごと
江戸時代後期	加倉井砂山の父、久泰が私塾を開設
1824(文政 7)年	父に代わって私塾を主宰
1855(安政 2)年	加倉井砂山、病没
1877(明治10)年	母屋、塾舎などが焼失、その後母屋を再建
2004(平成16)年	明治時代に再建した母屋が取り壊される
2015(平成27)年	日本遺産「近世日本の教育遺産群―学ぶ心・礼節の本源―」の構成文化財に認定